



長野県立病院機構の令和3年度決算の状況がまとまりました

3年度は 7億1千2百万円の純利益となりました

1 延べ患者数の状況

	令和3年度	令和2年度	増減(増減率)	増減の主な要因
入院患者数	221,303 人	216,067 人	+ 5,236 (102.4%)	診療体制を強化したことによる増加
外来患者数	398,435 人	372,020 人	+ 26,415 (107.1%)	コロナ禍での受診控えから回復が見られ増加

2 新型コロナウイルス感染症への対応(機構全体)

感染患者受入人数 ※疑い患者を含む	延べ日数 ※疑い患者を含む	主な対応等
309 人	3,031 日	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症医療の中核病院として常時入院患者に対応(信州) ・精神疾患を有する陽性患者の入院治療の実施(駒ヶ根) ・クラスターが発生した社会福祉施設への感染管理認定看護師の派遣(阿南) ・長野圏域など木曽保健所管外からの患者を受入(木曽) ・集中治療病棟及び一般病棟で小児感染患者を受入(こども)

3 令和3年度の主な取組

病院名	主な取組み
信州医療センター	感染症医療の中核病院として患者受入等、新型コロナウイルス感染症拡大に対応
こころの医療センター 駒ヶ根	インターネット・ゲーム依存症に係る治療プログラムを確立し、患者受入れを開始
阿南病院	常勤医師が不在となった売木村診療所への医師派遣及びオンライン診療の実施準備
木曽病院	歯科口腔外科を開設し、地域がん診療病院として診療を充実
こども病院	小児アレルギーセンターを開設しアレルギー疾患医療拠点病院として体制を強化

4 損益の状況

- ・ 経常収益は、入院で3病院、外来で4病院が前年度より患者数が増加したため前年度比 5 億 3 百万円増加し、259 億 2 千 3 百万円となりました。
- ・ 経常費用は、働き方改革への対応のための職員採用や原油価格をはじめとする諸物価高騰による影響で、前年度比 6 億 3 千 9 百万円増加し、251 億 4 千万円となりました。
- ・ 経常損益は 7 億 8 千 4 百万円の利益となり、臨時損益を含めた純損益は 7 億 1 千 2 百万円の純利益となりました。

(税抜、単位：百万円)

科 目	令和3年度	令和2年度	増減(R3-R2)
経常収益(ア)	25,923	25,421	503
医業収益	17,643	16,980	663
うち入院収益	12,236	11,926	311
うち外来収益	4,821	4,558	263
うち公衆衛生活動収益	453	383	70
その他経常収益	8,280	8,441	▲160
うち病床確保料	1,511	1,619	▲108
経常費用(イ)	25,140	24,501	639
医業費用	23,127	22,457	669
うち給与費	13,316	12,986	330
うち材料費	4,157	4,173	▲16
うち減価償却費	2,043	1,903	140
うち経費	3,557	3,346	211
その他経常費用	2,013	2,044	▲31
経常損益(ア-イ)	784	920	▲136
臨時損益(ウ)	▲72	▲11	▲61
当期純損益(ア-イ+ウ)	712	909	▲197

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

